

ブルノ市へようこそ 南モラビア地方

B | R | N | O |



聖ペトル・パベル大聖堂



ブルノ・ダムの花火大会

ブルノ市で毎年行われる行事

ブルノ国際音楽祭：イースター教会音楽祭（3月・4月）

・モラビアの秋（9月～10月）

ヨーロッパ中心の町・ブルノーシュピルベルク城・ヴェヴェ

ジー城花火大会：イグニス・ブルネンシス花火競技大会

（5月・6月）

ブルノ文化の秋：数々のイベント、コンサート、文化的催し
や集まりがブルノ市の中心部で開催されます（6月～9月）。

ブルノ・シェイクスピア祭り：シュピルベルク城で行われる
演劇フェスティバル（7月、8月）

チェコグランプリ：オートバイ世界選手権（マサリク・レー
シングコース）（8月末）

ブルノ・フォークロアフェスティバル：ブルノ市の中心街で
開かれるフォークロアフェスティバル（8月～9月）



B | R | N | O |

www.brno.cz

www.brno.cz

ブルノ市へようこそ

- チェコ共和国第2番目の都市であり、人口は約40万人です。
- 街の中心には、歴史ある古い町並が広がっています。
- ユネスコに認定された現代建築トゥーゲンハットがあります。
- 国際見本市が開催される町です。
- 大学、司法機関が集まっています。
- 文化・スポーツの催しが多く行われています。
- ブルノにあるショッピングセンターでお買い物をどうぞ。
- 工業団地のある街です。
- 南モラビアにあるカルストへ行くには最適の場所です。
- プラハ、ロンドン、ミュンヘンへ定期便が飛んでいます。
- ブルノ市は、ヨーロッパ中心の交通の要所にあり、市から200キロメートルの圏内にプラハ、ウィーン、ブラチスラヴァの3都市があります。



旧市庁舎



城シュピールベルク



ウーゲンハット邸

ブルノには、古い歴史を証明する重要な記念物が多く残っています。まず、町を遠くから眺めてみますと、**聖ペトル・パベル**（ペトロフ）**大聖堂**が目に入ります。大聖堂にはゴシック様式の2本の塔が美しいシルエットを醸し出していますが、塔が作られ街に聳え立つようになったのは20世紀初頭のことで、それほど古いものではありません。ロマネスク様式の地下室、見晴台のある塔が見学できます。

数多くある町の中でも、監獄で有名な町は少ないでしょう。ブルノはその数少ない町の一つなのです。王の**城シュピールベルク**は、18世紀には「国の牢獄」として有名で、オーストリアの受刑者、フランスのジャコバン党員など多くの人々がこの牢に入れられました。シュピールベルクは最近、再建工事が行われ、いくつかの常設展示や城の砦であり、昔、牢屋としても使われていた廊下が見学できるようになっています。夏には城の中庭でシェイクスピア・フェスティバルや音楽祭が開かれます。

ブルノのもう一つの城**ヴェヴェジー城**は**ブルノ・ダム**の向こうに聳え立っていますが、ここにも多くの観光客が訪れます。夏季には、城まで観光船に乗って行くことができます。ヴェヴェジー城は、ポトコモルスキーの森の美しい自然の中に立っています。

ブルノのモダニズムの結晶であり、世界に名を馳せる建物は、チェルノボルニー通りに立つ**トゥーゲンハット邸**です。ドイツの建築家ルードヴィヒ・ミース・ファン・デア・ローエの1930年の作品で、ユネスコの世界文化遺産に認定されています。トゥーゲンハット邸を訪れる人の数は年々増えています。トゥーゲンハット邸は、空間の取り方、使われている機械設備のユニークさ、インテリアのエレガントさで有名です。

機能主義を愛好する人々は、1928年にメイン・パビリオンAが公開され、ヨーロッパの見本市会場の中でもエレガントさに秀でている**ブルノ見本市会場**へも足を運ぶことでしょう。建築技術 という面からは1959年に出来たパビリオンZがユニークで、直径122メートル、高さ46メートルの円形ドーム型の建物です。最近になり、現代的なパビリオンVが建てられました。ブルノ見本市会場では、一年中、多くの国際見本市や展示会が開かれています。

その他、重要な文化財としては次のような場所があります。カプチン修道会墓碑、旧市庁舎、聖ヤクブ教会、チェルヴェニー教会（赤い教会）、ムニェニンスキー門、マーヘン劇場、アウグスティノ修道院と聖トマーシュ教会、新市庁舎、プラジャーク宮殿、旧ブルノ修道院などです。

ブルノを代表する人物



レオシュ・ヤナーチェク（1854年生－1928年没）

世界的に有名な作曲家・合唱団長・民族誌学者・音楽理論家・教育学者。ブルノにおいて民族のための活動を推進した人物

ブルノで行われたヤナーチェクのオペラ『イエヌーファ』の初演は、ブルノオペラ史上、最も記憶に残る出来事であり、このオペラによってヤナーチェクは世界的に有名な作曲家となりました。ヤナーチェクは自己の人生最後の10年間に、オペラ『カーチャ・カバノヴァー』（1921年）、『利口な女狐の物語』（1924年）、『マクロプロス事件』（1926年）、『死の家から』（1930年）、これまでの常識を超えた『グラゴル・ミサ』（1927年）などを作曲しましたが、それらの作品の初演は国際的に有名な文化的催しとなり、ブルノ市にヨーロッパ各地からオーケストラやオペラ座の批評家、監督、指揮者が訪れました。



ヨハン・グレゴル・メンデル（1822年生－1884年没）

自然科学者・生物学者・遺伝学の設立者・アウグスティノ会派スタレー・ブルノ修道院の修道院長

メンデルの発見した交配種の誕生と進化、遺伝、形質の変化の法則は、遺伝学が科学として成立する基礎となりました。メンデルの研究結果は1865年、ブルノ自然科学協会の講義と雑誌で発表されましたが、当時の研究レベルに比べ少なくとも二世代先を見越した内容であったため認められず、20世紀になって初めて見直され、現代遺伝学の基礎となりました。



ヴィクトル・カプラン（1876年生－1934年没）

エンジニア・ブルノ市ドイツ技術学校教員・カプランターピンの発明者

カプランはブルノで生涯の30年を過ごし、カプランの発明はすべてブルノで行われました。羽根の角度を変え、高い効率を維持しつつ落差を抑えた水カターピンの発明は世界に大きな影響を及ぼしましたが、その発明が行われたのは1912年のことです。その年から翌年にかけて、カプランは徐々に4つの発明を特許申請し、効率の高いエネルギー装置である新型水カターピンを完成させたのでした。また、モデルターピンの試験方法、機械学や金属学の研究方法の向上に尽くしました。



クルト・ゲーデル（1906年生～1978年没）

哲学者・数学者・物理学者

クルト・ゲーデルは、20世紀の偉大な論理学者の一人であり、ゲーデルが懸念にしていたアルベルト・アインシュタインに比肩する人物です。ゲーデルの最大の功績は不完全定理で、それはアメリカでも認められ、プリンストン高等研究所で教鞭を取ることにもなりました。研究の主題は、論理システムの公理とその形式で、研究結果を完全に形式化することは不可能であることを哲学的に証明しました。1953年には、アメリカ国立アカデミーのメンバーに選ばれました。



エルンスト・マッハ（1838年生－1916年没）

物理学者・哲学者

エルンスト・マッハの哲学は経験批判論、時にマッハ主義とも呼ばれるものです。マッハによれば、事物はすべて感覚の複合であり、経験要素、つまり主観的な経験が集まったものであると考えられました。マッハの理論に基づく、ニュートン力学を根本から覆すことになり、新しい動きの見られなくなっていた数学物理研究モデルに新風をもたらし、自然科学界ではすでに明らかであるとされていた理論に対して批判的な立場をとりました。マッハの主要著書には、『感覚の分析』（1885年）、『熱学の諸原理』（1896年）、『認識と誤謬』（1905年）などがあります。



ロベルト・ムジール（1880年生－1942年没）

作家・哲学者・劇作家

ロベルト・ムジールは散文作家で、今日、フランツ・カフカに並ぶ人物とされており、造形美術評論、散文小品、演劇評論など数々の素晴らしい作品を残しました。1952年にムジールの長編小説『特性の無い男』の注釈つき原典批評版が発行されました。1949年には、ロンドンタイムズの書評紙TLSが20世紀前半における著名なドイツ語作家としてムジールを一位に上げ、『特性の無い男』を世紀の長編小説として評価しましたが、その名はあまり知られていません。